

親密圏／公共圏としての炭鉱コミュニティ
— 産業遺産の表象から —

木村 至聖

(甲南女子大学人間科学部専任講師)

井上 博登

(札幌国際大学観光学部専任講師)

永吉 守

(福岡工業大学ほか非常勤講師)

2011年11月



京都大学グローバル COE

「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」

Global COE for Reconstruction of the Intimate and Public Spheres in 21st Century Asia

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科
Email: intimacy@socio.kyoto-u.ac.jp URL: <http://www.gcoe-intimacy.jp/>

アブストラクト

今年度の報告書では、産業社会の親密圏／公共圏の理念型とその変容について、地域住民をはじめとする当事者たちがいかなる実践を通して立ち向かいつつあるのか、その様々なあり方を描き出した。井上は住友赤平炭鉱をはじめ様々な規模の炭鉱集落が複層的に存在していた北海道の赤平市の事例、木村は地域内外のポリティクスが産業遺産の整備や保存に与える影響について主に国外の事例、永吉は三池炭鉱で歴史的に重要な役割を果たしてきた与論島から長崎県口之津および三池に移住した移民労働者の親密圏について調査を行ない、それぞれの事例のなかで産業遺産の表象がいかにつくられつつあるかについて明らかにしている。

キーワード：産業遺産、表象、産炭地

2010年度次世代研究「親密圏／公共圏としての炭鉱コミュニティ ―産業遺産の表象から―」
(研究代表：木村至聖) による成果である。

【メンバー】()内は2010年度プロジェクト時点

木村 至聖 (京都大学大学院文学研究科グローバル COE 研究員)

井上 博登 (早稲田大学大学院人間科学研究科博士後期課程)

永 吉 守 (福岡工業大学ほか非常勤講師)

中島 満大 (京都大学大学院文学研究科博士後期課程)